

## 雪と霧の観音峰 登頂あきらめ撤退

2010年1月15日 参加者7名（澤木、成田、松尾、松下、道中純、道中公、吉川） 天候 曇り

6:00 まだ薄暗い旧當麻町役場から2台の車に乗って出かける。309号線を走り、途中道の駅「黒滝」で休憩。澤木さんが天然の芸術品を見つける。《樋から鎖を伝って流れた水がそのまま鎖と共に凍っているのかな》しかも朝の空気の中、キラキラと青く光っている。トンネルを抜ける度山の雪が多くなる。



深深とした雪の中を進む

7:30 観音峰登山口（駐車場、トイレあり）に着く。道が凍っていたりしたため、タイヤに滑り止めを巻いてゆっくりと走ってくると、駐車場は雪が積もっている。  
7:50 アイゼン、スパッツで足元を固め、リーダーについて出発する。坂になっているところでは「エッジ（靴を横にして）！」との声。

直に観音水に着く。笕から清らかな音と共に流れ出ている。大小の動物の足跡が鮮明に残っている。狐かな？鹿？雪の中何のために等想像しながら歩く。風に乗って舞い降りた杉の葉が模様のように並んでいるのもおかしい。（清少納言の気分です）。

8:45 観音平着。立派なあずまやがあり、窓枠にかわいい雪だるまがのっている。ここからは少し急坂となり、雪の深さを先頭の残した足跡が物語る。その雪の中に枯れたススキが顔を出し、サヤサヤと乾いた音をだす。

9:20 観音峰展望台着。大きな石碑が建っている。辺りは雪に埋まった芒が原となり、  
**ミヤマシキミの実** 風が吹いて寒い。洞川の村が真下に見えるが灰色の雲が空を覆っていて周りにあるだろう山々は見えない。相談して風のない所まで進む。北に向かって二次林の中に入り、道中二人は肩を組んでラッセルにて雪を踏み固める。そこに立って一休み。



松尾さん「リョウブは一属一種。鹿が樹皮を食べるがなかなか枯れない」、吉川さん「これはソヨゴですね。赤い実がなっている」。

10:15 雪は深く、眺望はさっぱり。諦めて引き返すことになった。一休みした所から立派な休憩所（あずまや）まで引き返してお弁当にする。おにぎり等ほおぼっている内に手がかじかんでくる。誠に寒い体験をしつつ「窓を作るべきだ」とか「何も外材を使わなくとも」。成田さん「登る時は寒々と感じた雪が今じゃお砂糖に見えてくる」。松下さんは南北朝時代の歴史が綴られた石板を雪の中で見出す。

11:30 駐車場に帰り、澤木さんの用意して下さったコーヒーで温まり、さらに洞川温泉に浸かり、黒滝ではコンニャクおでんを食べる。

14:30 振出に帰る。松尾さん「今日は雪を観に行ったということですね」

振り返れば、今だから雪の中を歩く事ができ、山のお友達に感謝します。(道中公代さん)



眠る石仏（果無越え）

## 盛況だったハイキング講座

1月16日大和高田市の健生荘で土庫病院友の会ハイキングクラブ(今回はオオヤマレンゲ山の会との共催)のハイキング講座第一回「ハイキングの基礎」が行われ、36名が参加、受講しました。

講師はオオヤマレンゲ山の会役員の門田正博さん。山登りの歩き方とトレーニングのやり方、地図の読み方、水分摂取、トイレ、休憩その他ハイキングの基礎的知識と日常生活の留意点など分かりやすく話しました。



第一回ハイキング講座の様子

参加した女性から「ハイキングA・B・Cの講座よく分かり、大変有意義な内容でよかったです。特に最初の歌ー参加者の心を和やかにしてくれましたーはよかったです。機会あるごとに聞かせてください」との感想が寄せられています。

第2回目は3月13日午後2時から健生荘で。内容は「山での写真の撮り方ー山岳写真の技法とデジタル写真」、講師は日本写真作家協会全国理事の早津忠保さん。ご期待下さい。(以上111号)